平成24年度　事務事業評価シート

※平成23年度に実施した事業を評価しています

継続

事務事業名称	平和施策													
コード	10	－	23	－	01	－	00	予算事業名	平和施策					
担当部署	総務部		総務課		総務担当			予算事業コード	会計	10	款	02	項	01	目	01

1. 事業の位置付けと関連計画等

第三次川越市総合計画後期基本計画における位置付け　　位置付けなしの場合

法令による実施義務　義務ではない

基本目標(章)	6章	人と人とのつながりを感じ、安全で安心して暮らせるまち	根拠となる法令、条例等	平和基金条例
方向性(節)	1節	ふれあいと思いやりのある地域社会の形成		
施策	2	平和で思いやりのある地域社会づくり	個別計画等の名称	なし
細施策	3	平和意識の高揚		

2. 事業の目的と概要

事業の目的（誰・何を対象に、何のために実施するのか）	市民を対象に、平和を愛する心を育む社会づくりを推進するために実施する。
事業の概要（活動内容、実施手段・方法など）	平和標語の募集・表彰を行います。広島平和記念式典へ市民代表を派遣します。原爆写真展を開催します。埼玉県平和資料館及び丸木美術館の見学会を実施します。

3. 実施にかかるコストと実績

（単位:千円）

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
予算額		1,074	1,116	1,115	1,353	1,370	
事業費	A	1,071	1,090	1,000	1,008	1,370	1,140
人件費	B	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850
総コスト（C＝A＋B）		2,921	2,940	2,850	2,858	3,220	2,990
正規職員（1年間の従事人数）		0.25人	0.25人	0.25人	0.25人	0.25人	0.25人
臨時職員（1年間の従事人数）		0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人
国県支出金	D	0	0	0	0	0	0
その他特定財源	E	303	305	191	157	253	253
市の財政負担（＝C－D－E）		2,618	2,635	2,659	2,701	2,967	2,737

※24年度、25年度の事業費、人件費は見込額
※臨時職員の給与も、人件費に含みます。

4. 成果指標・活動指標による分析

成果	：中心指標	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	指標の定義
成果	広島平和記念式典参加者数	人	15	15	15	15	広島平和記念式典へ派遣した市民の数
成果	平和標語応募数	点	258	240	239	234	小中学校の児童生徒を対象とした平和標語の応募作品数
成果	埼玉県平和資料館等見学会参加者数	人	10	13	15	13	埼玉県平和資料館及び丸木美術館見学会に参加した市民の数
活動	原爆写真展の開催	箇所	3	3	3	2	原爆写真展を開催した場所の数

中心指標の考え方	本事業は、成果指標を中心に評価する。
指標に基づく評価	戦争の体験や記憶が風化しつつある中、平和意識の高揚を図るためには継続して事業を実施し、平和の尊さ・大切さを認識してもらうことが必要である。

5. 事業の実施を通じた分析・評価

(1)　現在の課題と状況　　効率性に課題

平成24年度は市制施行90周年記念事業に位置づけ、広島平和記念式典へ中学生を派遣し、埼玉県平和資料館等見学会では、親子を対象として事業を実施する。今後も、若い世代への平和意識の高揚を図るための施策を推進することが必要である。

(2)　比較参考値（他市での類似事業の例など）

平和施策の取り組みは、自治体によって様々な事業を展開している。中でも広島平和記念式典市民派遣事業は、県内市では7市（本市除く）が実施しており、派遣人数は2名～15名で、ほとんどが中学生を対象としている。

(3)　事業を廃止・縮小したときの影響

平和基金設置自治体として、また、平和宣言都市としての市の責務を放棄することになりかねず、平和に対する市の方針・姿勢がイメージダウンとなってしまうことが想定される。

(4)　**所属長自己評価（今後の方向性）**　　**継続**

市民の平和意識の高揚を図るためにも、事業を継続して実施し、一人でも多くの市民に参加していただき、平和の尊さ・大切さを認識してもらうことが重要である。平成24年度は市制施行90周年記念事業に位置付け、例年とは異なり若年層を対象とした事業展開となるが、今後も工夫しながら事業を推進していく。